

## 第2章 今までの取組みと課題

### 1. 第1次計画「HOT胎内たすけあいネット」の評価

第1次計画では「誰もが安心して生活できるささえあいの仕組みづくり」を達成するため、「ふれあいの場の充実」「地域の活動拠点の確保」「ささえあう関係の構築」に取り組みました。

このうち「ふれあいの場の充実」では、胎内市社会福祉協議会の支援を受けながら、市民主体の『お茶の間サロン』活動が市内各地に広がりました。また、胎内市社会福祉協議会が空き家を活用して運営している『ほのほの茶屋』に多くの人たちが集い、交流しています。一方、「地域の活動拠点の確保」は十分に進みませんでした。

「ささえあう関係の構築」では、千葉県松戸市常盤平団地自治会長の中沢卓実さんの講演会『地域の絆を結び直す～「孤独死ゼロ作戦」の取り組み～』をとおして、地域の結びつきの大切さ（日頃から、近隣の人たちがあいさつすること、気軽に相談できる関係づくりなど）を学びました。

### 2. 第1次計画「HOT胎内たすけあいネット」の課題

「ふれあいの場の充実」では、市内各地で活動する『お茶の間サロン』について、①多くの市民が『お茶の間サロン』を知らない。②参加者が固定化している。③担い手が不足している。④多くの『お茶の間サロン』で男性の参加者が少ない。⑤世代間交流の活動が乏しいなどが今後の課題としてあがりました。

「地域の活動拠点の確保」では、第1次計画の目標が十分に達成できなかったため、①生活の困りごとを相談できる身近な場所がない。②近隣の人たちがお互いに支援する活動が進まない。③同じ地域（町内会など）で暮らす人たちに共通する生活の困りごとを解決したり、生活に望むことを達成する活動が進まないなどが今後の課題としてあがりました。

「ささえあう関係の構築」では、悪質な訪問販売などで被害に合わないような地域ぐるみの見守り活動や災害時の助けあいに結びつく普段の暮らしでのつながり（近隣の皆さんによるささえあいの関係づくり）、市民の暮らし・健康・学びをささえる行政・医療・保健・福祉・教育機関とのネットワークづくりなどが今後の課題としてあがりました。

### 3. 地域福祉アンケートの調査からみえてくるもの

第1次計画「HOT胎内たすけあいネット」の課題をふまえて、胎内市社会福祉協議会は、市民の皆さん（236名）および小中学生の皆さん（41名）を対象とした地域福祉アンケートの調査を実施しました。

調査結果のうち、「地域福祉活動・ボランティア活動がもっと地域で活発になるために必要だとおもうこと」では、①活動のきっかけがない人のために、きっかけづくりの場（身近な活動拠点）を増やした方がよい。②福祉やボランティアに関するお知らせが、多くの方法でわかるとよい。③地域福祉活動やボランティア活動を進めるための講習会を開催したり、

活動の手引き（マニュアル）があるとよい。という回答が多く寄せられました。

また、「生活の困りごとや地域の共通課題を解決するために充実してもらいたいこと」では、①困ったときに福祉機関（市役所、胎内市社会福祉協議会、地域包括支援センターなど）につながる連絡の仕組み。②地域での見守りの仕組み。③近所で気軽に集まれるサロン（お茶の間サロンなど）。という回答が多く寄せられました。

小中学生の皆さんを対象とした調査結果では、「自分たちができる取組み」として、①近所の人たちとあいさつする。②回覧板のお届け。③買いもののお手伝いなどという回答が多く寄せられました。さらに「福祉」という言葉に対するイメージを尋ねた質問では、①助けあい。②ボランティア。③やさしさ。と回答する子どもたちが多くいました。

#### 4. この計画の方向性（これからの共助づくりで必要なこと）

第1次計画「HOT胎内たすけあいネット」の課題および地域福祉アンケートの調査結果をふまえたこの計画の方向性（胎内市で暮らす人たちが取り組む共助づくりで必要なこと）は次のとおりです。

##### 【第1次計画の課題や地域福祉アンケートの調査結果】

##### 【計画の方向性】

○困ったときに福祉機関につながる連絡の仕組み ○困った時の助けあいに結びつく普段の暮らしでのつながり（近隣の皆さんによるささえあいの関係づくり） ○市民の暮らし・健康・学びをささえる行政・医療・保健・福祉・教育機関とのネットワークづくり	}	つながり
○生活の困りごとを相談できる身近な場所がない ○地域での見守りの仕組み		
○『お茶の間サロン』のPRと活性化 ○近所で気軽に集まれるサロン（お茶の間サロンなど） ○活動のきっかけがない人のために、きっかけづくりの場（身近な活動拠点）を増やした方がよい	}	集いの場づくり
○悪質な訪問販売などで被害に合わないような地域ぐるみの見守り活動 ○災害時の助けあいに結びつく活動を普段の暮らしで備える		
○近隣の人たちがお互いに支援する活動が進まない ○同じ地域で暮らす人たちに共通する生活の困りごとを解決したり、生活に望むことを達成する活動が進まない	}	参加
○子どもたちができる地域の取組み（近所の人たちとあいさつする。回覧板のお届け。買いもののお手伝い。） ○福祉に対する子どもたちのイメージ（助けあい・ボランティア・やさしさ）		
○福祉やボランティアに関するお知らせが、多くの方法でわかるとよい ○地域福祉活動やボランティア活動を進めるための講習会を開催したり、活動の手引き（マニュアル）があるとよい	}	情報